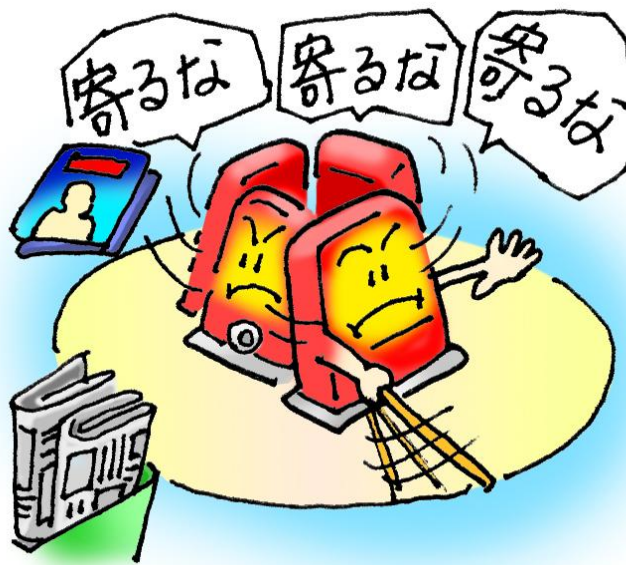


[ 石油ファンヒーター温風吹き出し口に紙が入り出火 ]

- 1 出火日時 3月 9時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居住者の70代の男性が自宅の居間で石油ファンヒーターをつけ、腰掛けて新聞を読んでいたところ、足元に広げてあった新聞紙が何らかのはずみで石油ファンヒーターの温風吹き出し口に入ってしまった、出火したものです。



6 予防対策

ストーブは冬場の代表的な暖房器具です。正しい使用方法を守って安全に使いましょう。「火の近くには燃えやすいものは置かない。」という火気使用時の基本をまずしっかり守り、次のことに注意しましょう。

- ・ ストーブを使用するときは、その周りを整理整頓し、可燃物がストーブに近づいたり、接触しないようにしましょう。
- ・ 使用するストーブに応じた可燃物との安全距離を保って使用するようにしましょう。安全距離は取扱説明書などに記載されています。

[ カートリッジタンクのキャップが外れ出火 ]

- 1 出火日時 2月 22時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居住者の60代の主婦が自宅の居間で反射式石油ストーブを使用中、給油しようとカートリッジタンクを取り外し給油した後再びセットしようとした際、キャップが完全に締められていなかったため、灯油がこぼれ消していなかったストーブの火に引火して出火したものです。



6 予防対策

この火災は、ストーブの火を消さないで燃料を補給したことと、カートリッジタンクのキャップが完全に締められていなかったことが原因で発生しています。

燃料を補給するときは、次のことに注意しましょう。

- ・ ストーブの灯油を補給するときは、必ず火を消してから行いましょう。
- ・ カートリッジタンクのキャップはしっかり締め、締まっているか確認しましょう。
- ・ 反射式のストーブの場合は、本体が冷めてからカートリッジタンクを取り扱うようにしましょう。
- ・ 補給するときこぼれた灯油は、必ず拭き取りましょう。

[ 電気ストーブに衣類が接触し出火 ]

- 1 出火日時 12月 0時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 負傷者 40代女性1名
- 5 原因概要

この火災は、居住者の10代の男性が自宅の居室で電気ストーブをつけたまま寝ていたところ、椅子に掛けてあったジャンパーが電気ストーブに接触し出火したものです。

なお、この電気ストーブはタテ型でヒータの高さが椅子の背もたれの位置くらいまであり、また、椅子はキャスター付で移動可能で座席も回転式のものでした。

この火災により、初期消火しようとした家人の女性が1名火傷を負っています。



6 予防対策

電気ストーブは石油ストーブと違い、直火が出ないため安全と思われがちですが、可燃物が直接ストーブに接触するときはもちろん、接近している場合でも長時間置いてあるとふく射熱により出火する危険性があります。

今回の事例は、可燃物のジャンパーが移動・回転可能な椅子に掛けられており、なんらかの原因で回転するなどしてストーブに接触したと考えられます。

石油ストーブと同様、使用するときは周囲を整理整頓し、可燃物が接触または近づかないようにしましょう。

カーテンなども、風で揺れてストーブに接触することがあるので注意が必要です。

[ 就寝中、電気ストーブに布団が接触し出火 ]

- 1 出火日時 11月 3時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居住者の10代の男性が自宅の居室で電気ストーブをつけたまま寝ていたところ、寝返りを打った際に掛け布団が電気ストーブに接触し出火したものです。



6 予防対策

電気ストーブであっても、可燃物が接触していたりすると出火する危険性があります。就寝する際は、次のことに注意しましょう。

- ・ ベッドや布団と電気ストーブの間は十分な隔離距離を取るようにしましょう。
- ・ ベッドや布団と電気ストーブの隔離距離が十分取れない場合は、他の安全な暖房器具を使用しましょう。

電気ストーブは、ヒーターとしてニクロム線を石英管に封入したものが一般的でしたが、現在はセラミックヒーター・ハロゲンヒーターやカーボンヒーターと呼ばれるものなどさまざまな種類のものがありますので、取扱説明書に従い機器に応じた取り扱いをしましょう。

なお、石油ストーブは、寝る前には必ず消すようにしましょう。

[ 電気ストーブに洗濯物が落下し出火 ]

- 1 出火日時 5月 14時頃
- 2 出火建物 専用住宅 平屋建
- 3 火災程度 全焼
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居住者の30代の男性が自宅の居室で、洗濯物を乾かすために電気ストーブをつけたまま上部に洗濯物を干し外出したところ、留守中、なんらかの原因で洗濯物がストーブの上に落下し出火したものです。



6 予防対策

雨の日が長く続き洗濯物が乾かずたまってくると、つい、洗濯物をストーブで乾かそうとしてしまう人いませんか？

今回の事例は電気ストーブの上に洗濯物が落下し加熱され出火したもので、石油ストーブでもよくある例ですが、電気ストーブでも同様の危険性があります。

洗濯物をストーブの上部に干して乾いてくると軽くなり、また、水分もなくなるので燃えやすくなっています。

洗濯物をストーブの上に干すことはやめましょう。また、上方に可燃物があるような場所ではストーブを使用しないようにしましょう。

[ 置いたかばんが電気ストーブに触れスイッチが入り出火 ]

- 1 出火日時 1月 2時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 部分焼
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居住者の10代の男性が自宅の居室でかばんを投げ置いたところ、電気ストーブに触れたはずみでダイヤル式のスイッチが入り、そのかばんに着火し出火したものです。



6 予防対策

何気なく置いたかばんが電気ストーブに接触し、気付かぬうちにスイッチが入ってしまったものです。

まず、「ストーブの近くには燃えやすいものは置かない。」という基本をしっかり守りましょう。

また、使用しないときは電気ストーブなどのコードはコンセントから抜いておくようにしましょう。

[ 電気ストーブ近くのスプレー缶が破裂し出火 ]

- 1 出火日時 5月 16時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 負傷者 80代女性1名
- 5 原因概要

この火災は、居住者の80代の女性が1階の居間で電気ストーブを使用していたところ、すぐ近くに置かれていたスプレー缶がストーブの熱により暖められ、封入されているプロパンガスが膨張して破裂し、中の引火性液体に引火して出火したものの。

なお、この火災により同じ室内に居たこの女性が火傷を負っています。



6 予防対策

殺虫剤やヘアスプレー等のスプレー缶の多くは噴射用にプロパンガスが使用されています。ストーブ等の火気の近くで使用したり、放置したりすることは大変に危険です。

炎に向けて発射することはもちろん、ストーブ等の近くでは使用しないようにしましょう。

また、保管場所に注意し、高温になる所や小児の手の届くところには置かないようにしましょう。